

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会
第 101 回 原子燃料サイクル専門部会 議事録

1. 日 時：2025年2月6日（木）13：30 ～ 15：15

2. 会議方式：Web 会議

3. 出席者：（敬称略）

（出席委員） 佐々木部会長，宮澤副部会長，藤原幹事，浅見，飯田，生田，生駒，石原，伊藤，井原，菊池，小澤，小松原，齊藤，坂井，白井，高橋，立川，中島，花山，福元，山本(武)，山本(正)（23名）

（常時参加者）佐藤，田村，古田（3名）

（欠席常時参加者）大塚，酒井（2名）

（説明者）【リサイクル燃料貯蔵分科会】白井幹事，清水委員

【LLW 放射能評価分科会】田村幹事，駒月委員，中島(一)委員

【輸送容器分科会】海老原幹事（延べ6名）

（事務局）大沼，正岡，平野（3名）

4. 配付資料：（議事録末尾に一覧を掲載）

5. 議事内容

事務局から開始時，委員 23 名中，23 名が出席しており，成立に必要な定足数（16 名以上）を満足している旨が報告された。

(1) 前回議事録（案）の確認（FTC101-1）

前回議事録（案）について，事前に配付されていた資料FTC101-1にて，承認された。

(2) 人事（FTC101-2）

事務局から FTC101-2 に基づき，専門部会及び分科会の人事について以下の提案があり，委員の退任等が確認され，審議の結果，委員の再任・承認等が決議された。

【専門部会】

◆決議事項

(1) 委員再任

佐々木 隆之	京都大学	2025.05～2027.04
立川 博一	原子力安全研究協会	2025.05～2027.04
山本 正史	原子力環境整備促進・資金管理センター	2025.06～2027.05

【分科会】

○輸送容器分科会

◇確認事項

(1) 主査選任・再任

坂本 幸夫	アトックス	2024.12.25～2026.12.24	1 期目
-------	-------	-----------------------	------

(2) 副主査指名

浅見 光史	海上・港湾・航空技術研究所
-------	---------------

(3) 幹事指名

海老原 稚典	原燃輸送
--------	------

○リサイクル燃料貯蔵分科会

◆承認決議事項

(1)委員選任

堂守 生剛 日立 GE ニュークリア・エナジー

◇確認事項

(1)委員所属変更

清水 仁 日立 GE ニュークリア・エナジー⇒(個人) 2024.10.01

(2)常時参加者登録解除

堂守 生剛 日立 GE ニュークリア・エナジー 2024.10.29

○LLW 放射能評価分科会

◇確認事項

(1)常時参加者登録承認

脇 寿一 関西電力

○LLW 処分安全評価分科会

◇確認事項

(1)常時参加者登録解除

斉藤 太一 日揮 2024.10.31

(3)【報告・審議】(FTC101-3-1~2)

“使用済燃料中間貯蔵施設用金属キャスクの安全設計及び検査基準：20XX”改定案に関する公衆審査の結果について

(担当：事務局，リサイクル燃料貯蔵分科会 白井幹事，清水委員)

事務局から資料 FTC101-3-1 に基づき，題記に関する公衆審査の結果，特に意見は無かった旨の説明があった。引き続き，説明者から資料 FTC101-3-2 に基づき，完本版に変更が無い旨が説明され，審議の結果，次回の標準委員会へ報告することが決議された。

特に質疑，コメント等は無かった。

(4)【報告・審議】(FTC101-4)

“中深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順：2019”の改定に係る趣意書の修正について

(担当：LLW 放射能評価分科会 田村幹事，駒月委員，中島委員)

説明者から資料に基づき，題記標準の改定趣意書の修正について説明があり，審議の結果，この修正版について専門部会として内容を承認することが決議された。今後については2月18日の戦略タスク本会議に説明し，次回の標準委員会へ報告するかどうか，その報告の仕方を協議することとした。

主な質疑，コメント等は以下のとおり。

Q：添付1の3. 作業会で素案，分科会で原案という使い分けか。まだ不統一なところがある。

A：ご指摘のとおり，作業会で作成する標準案を素案，分科会で議論し専門部会や標準委員会に上げる標準案を原案と使い分けしたが，工程表の記載など修正できていない部分があると思われるため，確認して修正する。

Q：標準委員会へは既に報告していて，今回はその際のコメント対応としての修正であって，修正箇所について標準委員会へ報告をするが，分科会の改定作業自体は続けて良いという認識でよいか。

A：分科会での標準の改定作業は前回までに専門部会で審議了承，標準委員会で報告済みであり，分科会での改定作業は続けてよいが，改定した趣意書を標準委員会に報告が必要と考える。

C：改定した趣意書の扱いについて2月18日の戦略タスク本会議に説明し，次回の標準委員会へ報告するかどうかを議論することとしている。

(5)【報告・審議】(FTC101-5-1~2)

L1放射能評価標準の技術評価対応への振り返りについて

(担当：LLW放射能評価分科会 田村幹事)

説明者から資料に基づき、題記振り返り資料の見直し内容について説明があり、審議の結果、この比較表の内容を以前のWord文書に反映し、専門部会としての振り返り資料を作成し、それを標準委員会に報告することが決議された。報告の仕方については、2月18日のタスク本会議で協議される。主な質疑、コメント等は以下のとおり。

Q：この資料は新旧比較表だが、標準委員会へはこの比較表の内容を踏まえて、以前に作ったWord文書の反映版を出すのか。

A：Word文書と新旧比較表を併せてお見せしたいと考えている。

Q：この資料は専門部会の資料だが、標準委員会としてのスタンスペーパーを別に作成することになっているが、それは次の標準委員会において資料が提示されるか。

A：まだ資料作成中であり、次回の標準委員会にはまだ出ないと思われる。

Q：専門部会の方の振り返り資料を規格類協議会で説明してほしいという依頼があるが、それは標準委員会のスタンスペーパーとは別で考えるのか。

A：現状は別で考えている。

C：その場合、専門部会の振り返り資料の方は次回の標準委員会で見直し版を説明することとなっているが、それと標準委員会のスタンスペーパーとの関係はどうなるのかが不明確である。

C：この専門部会の振り返り資料修正版はL1放射能評価標準の技術評価対応に関するもので、一方、標準委員会の方は全体の話になっている。事前に調整が必要か。

A：2月18日の基本戦略タスクにおいてその扱いが協議されることになる。その結果で、3月5日の標準委員会へ出すか、規格類協議会へ出すかが決まることになる。

Q：前回の標準委員会では、時間を十分にとって本件について議論するというようになっていたが、2月18日のタスクの協議次第では予定変更も在り得るか。

A：そのとおりと考える。

(6)【報告・審議】(FTC101-6-1~2)

標準策定5か年計画の更新(2025年度版作成)について

(担当：藤原幹事)

説明者から資料に基づき、標準策定5か年計画の更新(2025年度版)について説明があり、審議の結果、本日のコメントを反映のうえ、次回の標準委員会へ報告することが決議された。

主な質疑、コメント等は以下のとおり。

Q：ウラン取扱施設のクリアランス標準については、公衆審査でコメントは無かったので今回その報告があるかと思っていたが、次回になるか。その場合、5か年計画も修正が必要となる。

A：分科会からは今回の議題には入れない旨の回答である。

A：分科会に再確認のうえ、5か年計画を修正する。

Q：3タスクグループについては、3つの標準について毎年確認するか。

A：毎年確認いただき、改定要と判断された場合には、分科会立ち上げに向けて活動いただくことを期待している。

(7) 【報告】 (FTC101-7)

倫理教育の実績について

(担当：藤原幹事)

説明者から資料に基づき、標準委員会での倫理教育の状況と、その後の専門部会、分科会での倫理教育の実績について説明があった。

特に質疑、コメント等は無かった。

(8) 【報告】 (FTC101-8)

分科会活動状況について

(担当：各分科会代表者等の関係者)

分科会の活動状況について各分科会から説明があった。

特に質疑、コメント等は無かった。

6. その他

(1) JIS Z 4001 の廃止対応に関し、事務局から資料 FTC101-参考 3 に基づき、標準活動基本戦略タスクの検討状況について紹介があった。

主な質疑、コメント等は以下のとおり。

Q：前々回の標準委員会で本件についての議論があり、もう決定かと思っていたが、まだ決定ではないのか。

A：JIS Z 4001の廃止自体は官報に正式に出たが、これを受けての標準委員会の対応は、まだ検討段階である。

C：影響がかなり大きい。つまり、これが決まったら現在進行中の標準についても、これに従って多少方針の変更も在り得るかと思う。決定を早めにして、分科会等への周知も早めに実施していただきたい。

C：どのタイミングで切り替えるかによって、標準の中の用語の定義の記載が変わってくるだろうし、標準委員会の用語集の作り方も変わってくるだろう。

Q：最終的には標準作成ガイドラインに落とし込むのか。

A：その予定である。

C：特に、現在制改定中の標準に関しては、分科会への周知が必要であり、専門部会幹事から注意喚起をしようかと思う。

C：分科会の中では既に廃止とその対応について議論をしているところがある。

Q：既に1月20日に廃止になっているので、現在制改定中の標準についての扱いはどうするか。

A：資料に記載のとおり、既に公衆審査まで進んでいるものは、そのまま発行してよい。

C：次回の標準委員会ではまだ決定にならないかもしれないが、現在制改定中の標準の扱いについて、明確になるように、専門部会幹事から申し入れてほしい。

A：了解した。決定したら分科会へ周知する。

(2) 今後の予定

次回は、2025年5月14日(水)13:30からの開催に決定した。

【配付資料】

- FTC101-0 第 101 回原子燃料サイクル専門部会議事次第
- FTC101-1 第 100 回原子燃料サイクル専門部会議事録（案）
- FTC101-2 人事について
- FTC101-3-1 “使用済燃料中間貯蔵施設用金属キャスクの安全設計及び検査基準：20XX”改定案に関する公衆審査の結果について
- FTC101-3-2 “使用済燃料中間貯蔵施設用金属キャスクの安全設計及び検査基準：20XX”改定案完本版
- FTC101-4 “中深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順：2019”の改定に係る趣意書の修正について
- FTC101-5-1 N R A 技術評価振り返り資料新旧比較
- FTC101-5-2 技術評価振り返り資料ご意見集約表
- FTC101-6-1 標準策定 5 か年計画（2025 年版）
- FTC101-6-2 標準改定・廃止の要否の検討結果
- FTC101-7 倫理教育の実績について
- FTC101-8 分科会の活動状況について

参考資料

- FTC101-参考 1 原子燃料サイクル専門部会委員名簿
- FTC101-参考 2 原子燃料サイクル専門部会出席実績
- FTC101-参考 3 JIS Z 4001 廃止に伴う標準活動の対応について

以 上